

令和3年度職業能力開発論文コンクール「入賞者の声」

令和3年度職業能力開発論文コンクール特別賞（中央職業能力開発協会 会長賞）に入賞された小田 浩司氏が、コンクール事務局の質問に回答してくださいました。



写真. 小田 浩司氏

入賞者の声：

Q 1. 普段はどのような業務に携わられていらっしゃいますか。

島根職業能力開発短期大学の生産技術科で、学卒訓練では機械設計や機械加工を担当し、在職者訓練では機械保全等に携わっています。また、総合制作実習では電子情報技術科と共創で水中ロボットを製作し、沖縄海洋ロボットコンペティションに参加・入賞しています。

Q 2. 今回の論文はどう業務に活用して貰いたい（どういった方に読んでいただきたい）ですか。

難解な内容ではなく、物語的な読みやすい内容なので、機械系指導員をはじめ現在学んでいる学生にも気軽に読んでもらいたいです。特に、ものづくりにおける生産技術・生産工程の向上の一手法として、参考にさせていただければ幸いです。

Q 3. 今回の論文を作成する際に気を付けたことはございますか。

技術に関する記述のみにならないように、共同研究相手先や相談依頼者とのかかわりの中で、実践した能力開発について表現することに気を付けました。

Q 4. 今後の応募を検討されている方へのメッセージはございますか。

これまで掲載されている審査委員長からのコンクールの総評を、一読されることをお勧めします。論文を構成していく際のポイント、注意事項、体裁などに意識することができると思います。

Q 5. 今回の論文を執筆された心境やきっかけをお聞かせください。

コロナ禍におけるフェイスシールドフレームの製作というタイムリーな内容が含まれるので、時機を逸しないように書き上げ投稿しました。

令和3年度職業能力開発論文コンクール「入賞者の声」

Q 6. その他、今回の論文本体内に書けなかったことで追記したいこと等がございましたらどうぞ。

こぼれ話として、プラスチックをレーザ加工すると、プラスチックの焼けた異臭が想像以上に強く、マスク不足の中、頻繁にマスクの交換を余儀なくされた苦労がありました。また、緊急事態宣言下で勤務制限があったため、製作を進めたくても進めることができないもどかしさも苦労の1つでした。

ご回答いただきどうもありがとうございました。

令和3年度職業能力開発論文コンクール事務局
基盤整備センター